

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800275		
法人名	特定非営利活動法人 ほのか会		
事業所名	グループホーム みんなの家		
所在地	夕張郡長沼町西町1丁目3-12		
自己評価作成日	平成23年3月7日	評価結果市町村受理日	平成23年4月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

研修の場を多く設け、個々のスキルアップに力を入れてまいりました。  
また、町内会の活動等に積極的に参加し地域住民との関わりに努めてまいりました。  
ホーム内でのケアについては、少しでもそれぞれのご家族で過ごした環境に近づけるよう日々、努力しております。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0175800275&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0175800275&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年3月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム みんなの家」は自然豊かな住宅地に立地し、敷地内には同法人のデイサービスとグループホームが隣接している。建物の共用空間は広く、居間と食堂を中心に居室や浴室、トイレなどが回廊式に配置されており、見渡しやすくなっている。また居間を広くして、ソファに座ってゆったりと団楽が楽しめるように工夫されている。理事長をはじめ本部のバックアップのもと、管理者と職員は業務やケアについて常にコミュニケーションを図り、心のこもった対応で利用者に接している。運営推進会議で災害や緊急時の協体制作りから避難訓練に住民の参加もあり、またスプリンクラーの設備、緊急時の備蓄品などで災害に備えている。利用者の食の楽しみと栄養バランスに配慮し、おかずや食器も含め彩り豊かな食事が提供されている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったりと楽しく、自由に、ありのままに、暮らしの喜びと自信をみんなとともに」を理念に掲げ、その人らしく、また地域に根ざしたグループホームを職員全員で目指しております。	理念にある「みんなと共に」の文言に、地域の住民と関係を持ちながら共に暮らす、との内容が込められており、自宅のような自由な暮らしを支えている。職員はミーティングで理念を話し合い実践している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、行事等へお年寄りをお連れし、参加する事がございます。また、当ホームで開催します行事へ近隣の方々をお誘いすることもあります。土曜日には、ボランティアによる音楽療法をおこなっております。	町内会のお祭りや敬老会に参加し、また花壇の花植えや清掃など、天候を見て職員と一緒に参加することもある。散歩中に子供と会話を交わし、法人合同の夏祭りには参加した近所の子供と交流を楽しんでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト等の研修へ積極的に参加し、認知症というものを地域の方々へ広く伝えられる基盤づくりをしているところです。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年、5月に運営推進会議を開き、取り組み評価の報告をしました。また8月、11月にも開催し、11月には委員会の方や地域の方々も交え、避難訓練等を実施いたしました。	敷地内の法人グループホームと合同の運営推進会議を今年度は3回実施し、その1回は、会議後にメンバーも参加して避難訓練を行っている。運営推進会議の議題が主に災害対策に集中しており、会議のテーマとしては内容に少ない面もみられる。	災害対策の他にも議題を広げ、家族の関心が高まるように内容の充実を期待したい。また回数を増やす取り組みにも期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、管理者には役場主催のサービス調整会議等へ参加し実情等の報告を行っております。また、困難事例の検討なども会議に盛り込まれておりますので、サービス向上に向けた協力関係も築けているのではないかと思います。	管理者はサービス調整会議に参加し、困難事例の検討や情報を得る中で、運営やサービスに役立てている。また、キャラバンメイトの認知症サポーター養成研修を受講し、担当者から依頼がある時は協力したいと考えている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等へ参加し、職員一人一人が身体拘束について熟知しており、身体拘束ゼロを実践しております。	法人作成のマニュアルや外部研修などで身体拘束について学び、拘束に繋がるケアや言葉の資料を収集しファイルに綴っている。さらに全職員に浸透できるように検討している。玄関は施錠をせず、内ドアに取り付けたセンサーの音で出入りを見守っている。	職員の具体的な行為や言葉が拘束に繋がることを職員間で話し合い、禁止の対象となる具体的な行為を示したマニュアルや禁句集などを作成することで、全職員の更なる理解に期待したい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の重要性は、研修等を通し、全職員が理解し実践しております。		

グループホーム みんなの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学ぶ機会があったが、それを活用できる事例が現段階ではない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の際には、十分に時間をかけ説明し、疑問点は伺い、その場で理解、納得していただけるようにしております。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からの要望には常に耳を傾け、すぐ解決するよう努めております。また、ご家族様へも相談したり、要望がないか等、電話やお会いしたときに伺っております。必要に応じて本部とも連携をとります。	家族の来訪時に職員の交代を丁寧に報告し、家族の気付きを聞くように努めている。毎月の来訪が難しい家族には電話で報告し意見を聞いている。本部とも相談しながら、さらに意見を吸い上げる方法を考えている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見等が出た場合は、管理者を交えず話し合い、必要に応じて代表者と意見交換も行っております。	申し送りや業務の中で改善や提案などを常に話し現場で解決しているが、判断が難しい時は会議で本部と意見を交換している。変更などは連絡ノートで確認している。職員からの相談や必要な時には、管理者は面談し個別に対応している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	取り組みとしては、日々の仕事に達成感を得られるよう個々の努力にまかせるようにしております。必要に応じて、助言や提案をし、給与については、努力の成果に見合ったものになるよう努めております。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアマネジャー受験対策教材を会社負担で提供したり外部の研修の遂行に無理の係らない範囲でおおいにすすめている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	栗山等で4社合同の勉強会を昨年は月に1回開いており、交流やネットワークの場としても、サービスの質を向上させるため、その場を活用しております。		

グループホーム みんなの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていることや不安に感じていることなどを聴き、ご本人の安心を確保するための関係づくりに、日々努めております。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていることや不安に感じていること、サービスを受けるにあたっての疑問などに耳を傾け、良い関係を築けるよう努めております。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	過去の出来事や現在の状態把握に努め、そこからどのような支援が必要となってくるのかを見極め、総合的なサービスとなるよう心がけ、提供しております。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に目線をお年寄りと一緒にし、生活を共にする者として、支援していくことに心がけております。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	援助の方針に迷った時、ご家族へ相談し、一緒に援助内容を決めるなどしております。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院や行きつけの美容院など把握し、本人の意向をふまえて、付き添いすることで、関係が途切れないよう配慮しております。	友人や知人の訪問時には茶菓子などを出し話しやすい雰囲気を作り、時には友人宅に一緒に出かけることもある。電話を取り次いだり、希望した美容室や買い物には職員が同行し、馴染みの関係の継続を支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム全体としてとらえ、一人にかたよることなく、全ての人と関わりを持つように努めております。		

グループホーム みんなの家

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合は、様子をうかがいにお見舞いに行ったり、退院後のサービス利用について、相談をご家族様から受けることもございます。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望、意向は聞き、サービスへ繁栄できるよう努めております。また希望を伝えることが困難な方については、データを基に本人本位となるサービスを検討しております。	利用者の思いを職員間で共有し、可能なことは意向に沿って検討している。利用開始時にフェイスシートと課題分析のアセスメントを作り、更新時に見直し新しい情報を追加しているが、暮らしの情報に不十分な面も見られる。	利用者の生活歴、趣味などを網羅した詳細な情報をアセスメント表に記録し、意向を汲み取るような工夫にも期待したい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当のケアマネジャーやご家族様にこれまでの生活歴や暮らし等についてうかがうようにしております。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態等について、定期的にまた変化に応じて、アセスメントし、現状把握に努めております。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントやモニタリングを行いそれを基に職員同士また必要に応じてご家族様に相談し現状に即した計画を作成するよう努めております。	新規の場合、暫定の介護計画は1ヶ月以内に見直し本プランとしている。状態に変化がない場合は、3ヶ月ごとに見直ししており、モニタリング表からカンファレンスで内容を評価し、更新計画を作成している。利用者・家族の意向を反映させた計画書には同意を得ている。現在、介護計画に沿った記録の記入方法を考えている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過を個別に記入し見直しできるよう個々にファイリングしております。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況、状態に合わせて臨機応変に対応できるようつとめております。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院等と連携を図り、皆様の健康促進に努めております。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と相談しながら適切な医療、介護を受けられるよう支援しております。	以前から受診している病院と協力病院の受診時には職員が同行し、主治医に情報を提供している。主治医からの説明など、必要に応じて家族も同行し治療方針を共有している。	

グループホーム みんなの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームには看護師はおりませんので、適切な受診、看護がうけられるよう病院へ相談したり、職員間で話し合ったりしております。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常日頃、定期受診等を通し、関係づくりを行っております。入院時には、早期退院できるように、話し合ったりもしております。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	話し合いはしているが、まだ事例がありません。	利用契約時に医療行為が生じた場合はホームでの生活が困難なことを口頭で説明している。現在、終末期についての考えを本部と相談しながら、事業所の対応指針として文章を作成中である。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等を通し行っております。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の方々と避難訓練も行っており、協力体制も整っております。	年に2回、消防署の立会いで敷地内の法人グループホームと合同の火災避難訓練を実施し、日中を想定した避難訓練には運営推進会メンバーや近隣の方が参加している。今後、夜間を想定した訓練にも協力を得たいと考えている。災害時の備蓄品を準備し、救急救命訓練の受講はほぼ完了して災害に備えている。	
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に心がけ実践対応をしております。	利用者の呼びかけは「さん」付けを基本とし、接遇や権利擁護の勉強会も行っている。個人記録などは事務所スペースで管理している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示できる方へは、自己決定できるよう促しております。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせて生活を送って頂けるよう支援しております。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を一緒に選んだり、身だしなみ等、ご本人に確認しながら行っております。		

グループホーム みんなの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを把握し、芋の皮むき、玉ねぎの皮むき、食器の準備等々また、後かたづけまでできるかたには協力をお願いしております。	利用者と職員が談話しながら楽しく同じ食事を摂っている。利用者の能力に応じて下ごしらえや盛り付け、後片付けなどを手伝っている。おかずや食器も含め彩り豊かな食事が提供されている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を用い、必要な栄養、水分が摂取出来るよう、努めております。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご本人の残存機能を活かし、口腔ケアを行っております。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を用い、排泄パターンの把握をし、失敗を減らせるよう努めております。	排泄チェック表に利用者の排泄記録を取り、パターンを把握しながら誘導している。日中はなるべくトイレで排泄できるよう支援している。パッドなどは利用者の安心を考えて希望に沿って使用している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の度合いや個人の能力に応じて運動、食べ物等の工夫、下剤の調整などを行っております。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則、曜日によって入浴が定められておりますが通院やその日の体調により、柔軟に対応しております。	月火木金の週4日の午後の時間帯の中で各利用者が2回は入浴できるように支援している。拒否のある場合は無理強いしていない。利用者の希望する介助者を当てるなど柔軟に対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に応じて支援しております。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬について理解し適切に対応しております。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活が同じにならないよう工夫しております。		

グループホーム みんなの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自然豊かな住宅街の中にあり、よく入居者様が一緒に散歩されたり、ドライブなども行っております。	夏場はほぼ毎日のように近くの住宅街を散歩している。車椅子の方も職員や利用者が同行している。敷地内の東屋で休憩したりお茶を飲んでいる。花見や紅葉狩り、夏祭り参加、寿司店での外食などの行事も行っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理をご自分でできる方に限り所持して頂き、使えるようにしております。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ、支援させていただいております。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住みやすい環境への配慮、工夫をしております。	居間と食堂を中心に居室や浴室、トイレなどが回廊式に配置されており、見渡しやすい。利用者の塗り絵や写真、手作りのカレンダーなどが飾られ、小鳥も飼っており、非常に家庭的な雰囲気を作っている。居心地よく過ごせるよう温度や湿度も調整されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や居間など思い思いに過ごして頂いております。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に相談し、行っております。	居室には利用者が馴染みの家具や生活用品などを自由に持ち込むことができ、安心して過ごせる場所となっている。居室の入口には和風のお洒落なのれんがあり、壁も利用者が自由に飾り付けをすることができる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出きる限りの能力を活かして頂き、見守りをする事で実現しております。		

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム みんなの家

作成日：平成 23年 3月 31日

市町村受理日：平成 23年 4月 5日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議での議題内容に偏りがあった。	議題内容の充実を図る。	ご家族へ議題としたい内容や質問事項を聞き入れ、会議の内容へ結びつける。又、開催回数を増やせるように、年間計画を立てる。	1年
2	6	身体拘束に関する具体的な行為や言葉が全職員間で周知されているか疑問である。	身体拘束に関する理解を職員全員が周知徹底を図る。	資料を集め、内部研修を更に行い、外部研修の機会があれば積極的に参加する。また、禁止行為、禁句集を職員間で話し合い作成する。	6カ月
3	23	個別のアセスメントが簡単なものとなり、詳細な情報が入っていない為に、適切な思いや意向が汲み取られているか疑問である。	入居者様の思いや意向を正確に把握する。	アセスメント用紙をより詳細に記載できるものへ変更し、より詳しい情報収集をする。	6カ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。